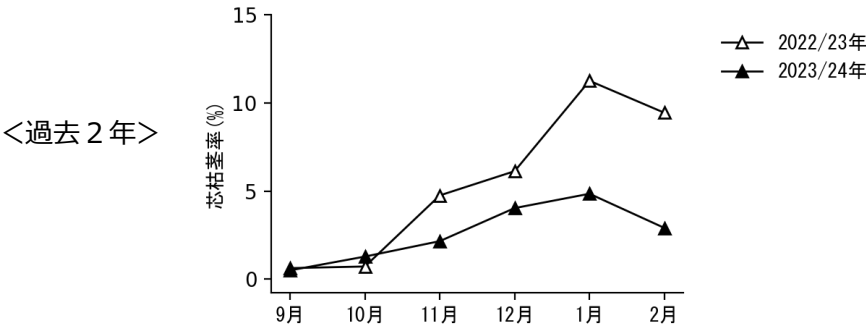
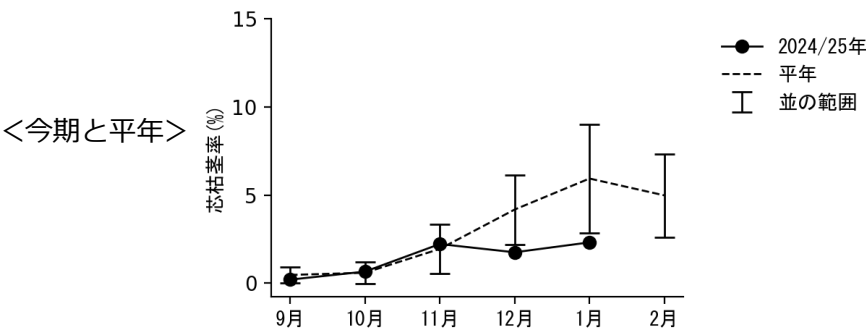


作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	やや少		
予 報	1 月からの増減傾向	↓		
	2 月の発生量（平年比）	やや少		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）		

調査結果

芯枯茎率の推移（夏植え）



・発生ほ場率75.0%（平年：94.7%） ・病害虫防除員報告：多発生（南大東島）

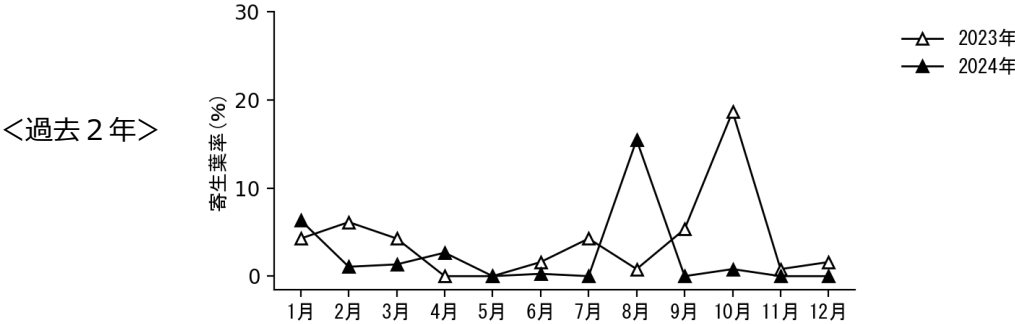
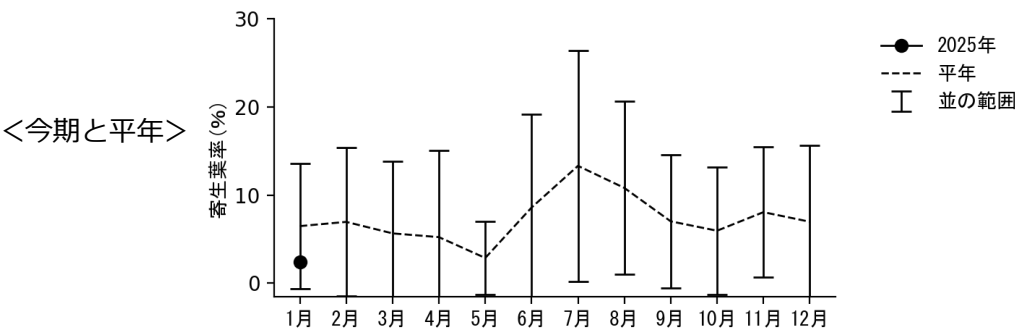
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率40.0%（平年：47.8%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



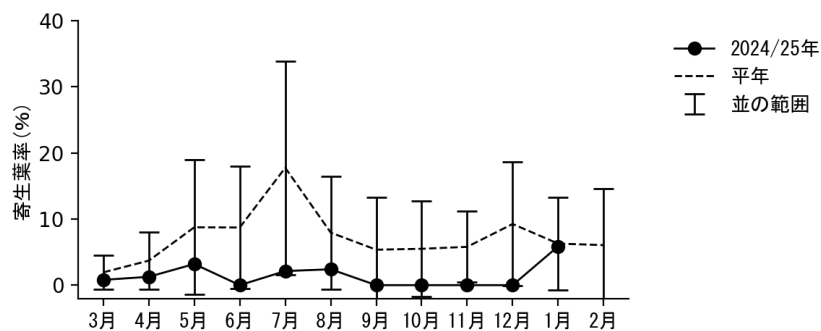
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		 ミカンハダニ	
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

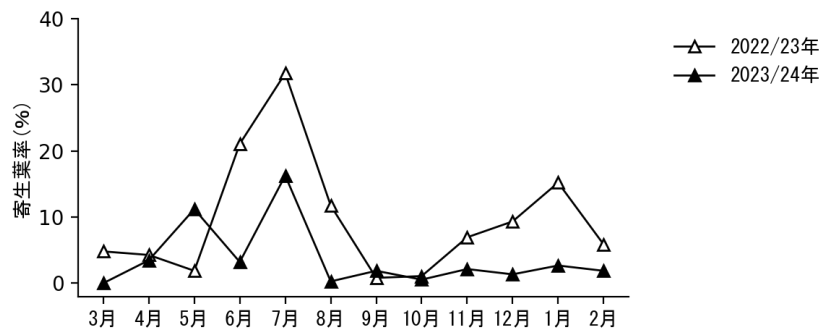
調査結果

寄生葉率の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率40.0%（平年：36.7%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

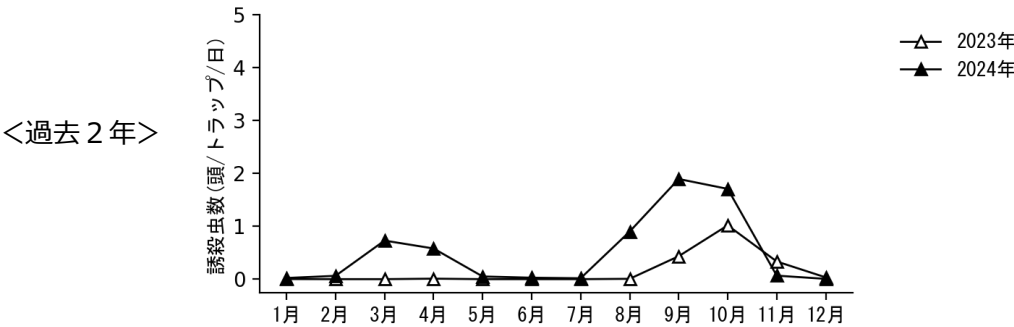
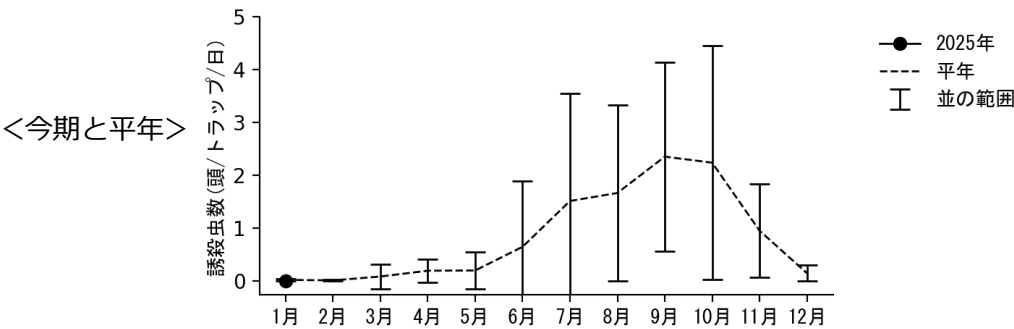


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	やや少		
予 報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率50.0%（平年：77.5%）

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



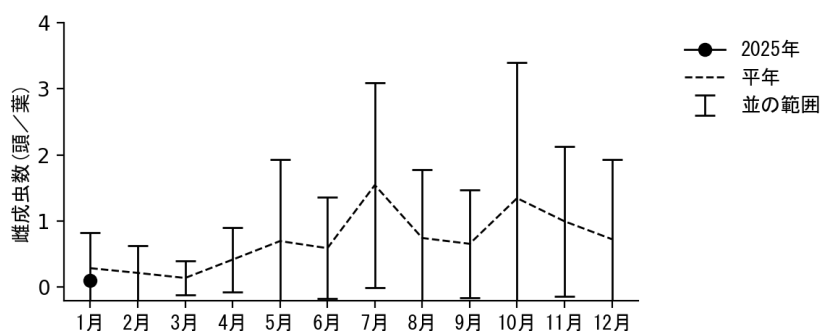
ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		 シュレイツメハダニ	
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

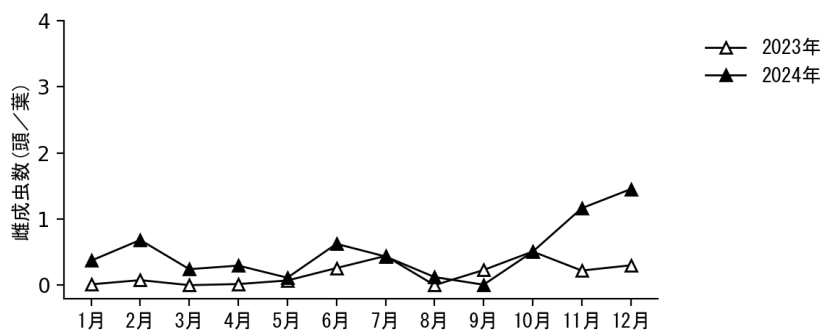
調査結果

雌成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率16.7%（平年：27.3%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状



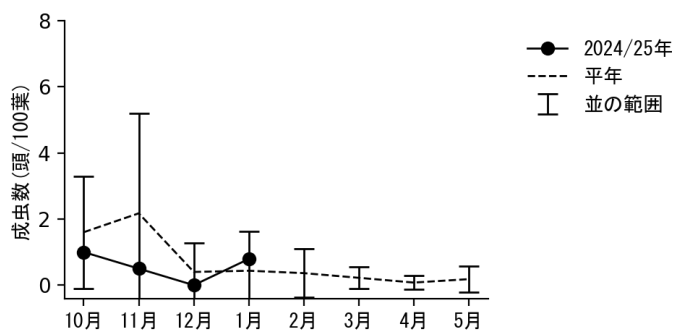
マンゴーツメハダニ

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		 成虫	
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

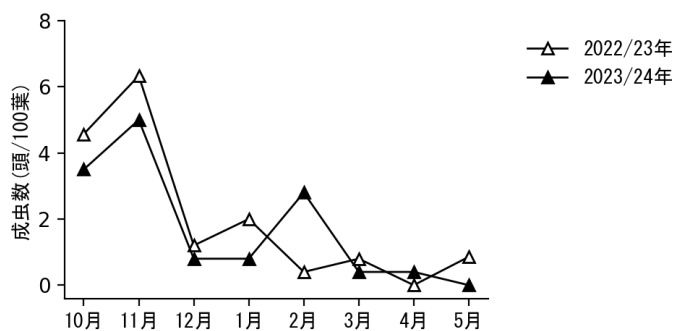
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率40.0% (平年 : 5.5%)

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。



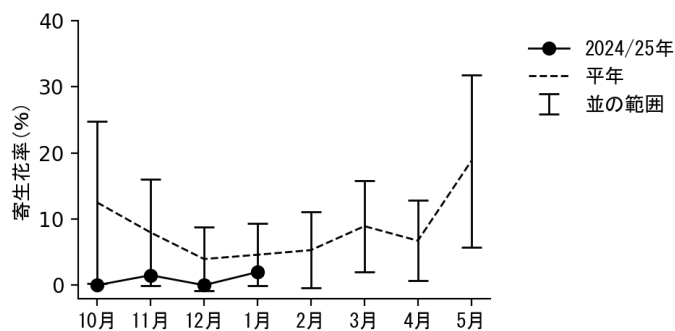
被害葉

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ヒラズハナアザミウマ			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

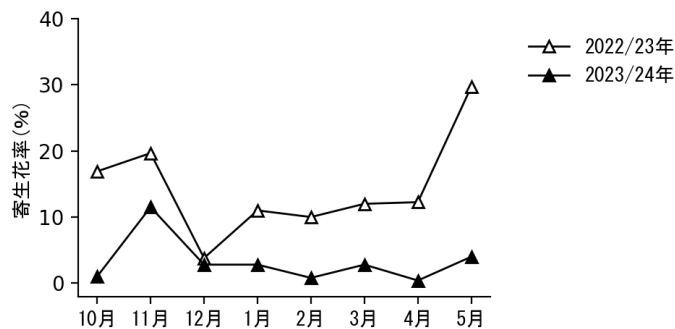
調査結果

寄生花率の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率40.0%（平年：40.0%）

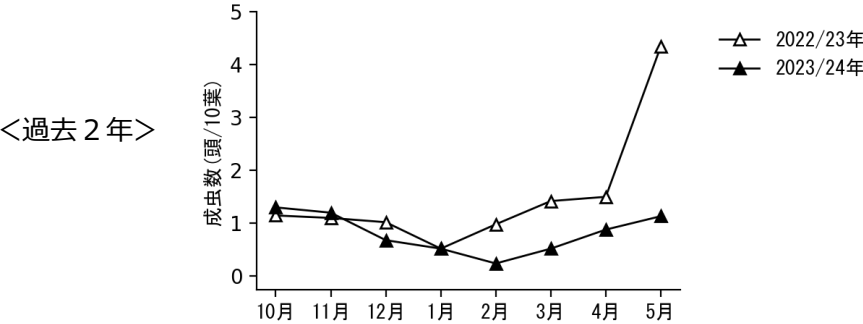
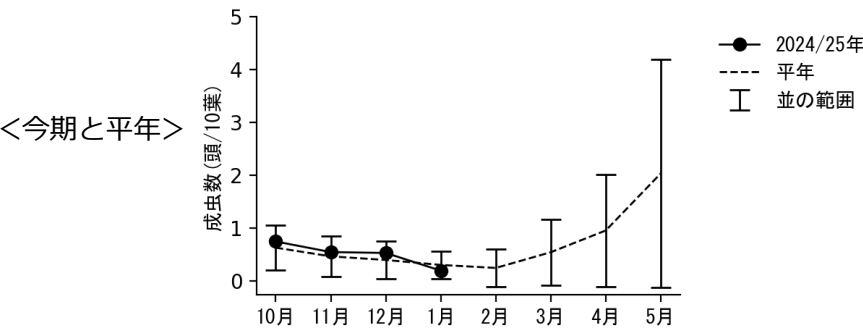
防除のポイント

- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実ヘタ部や果梗部が黒変する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		 成虫	
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率60.0%（平年：45.5%）

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

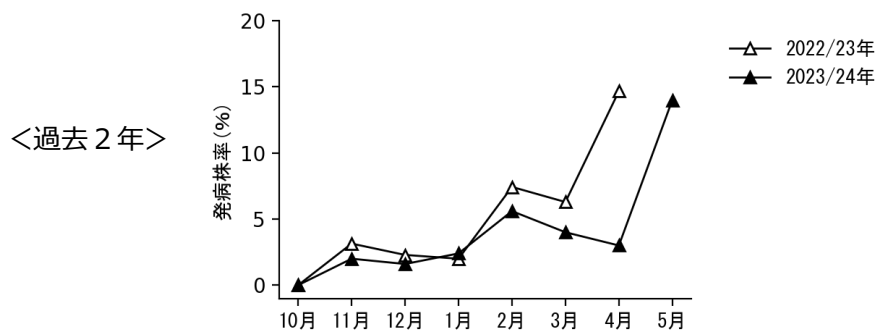
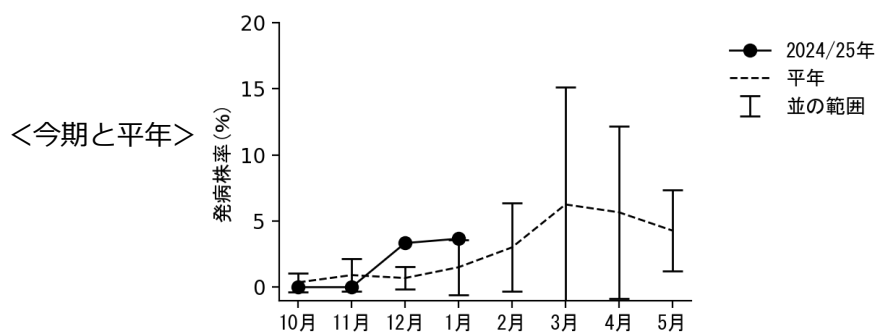


幼虫

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	1 月からの増減傾向	↗		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率83.3%（平年：26.1%）

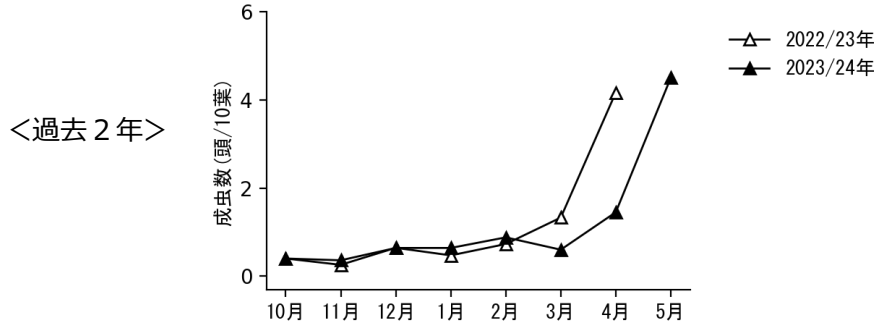
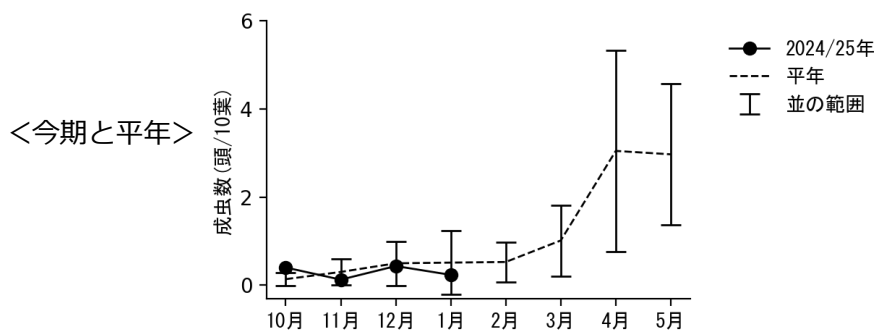
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・伝染源となるムラサキカタバミやノゲシ等の雑草除去に努める。
- ・発病株や摘葉残さは伝染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		 成虫	
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率83.3%（平年：50.7%）

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

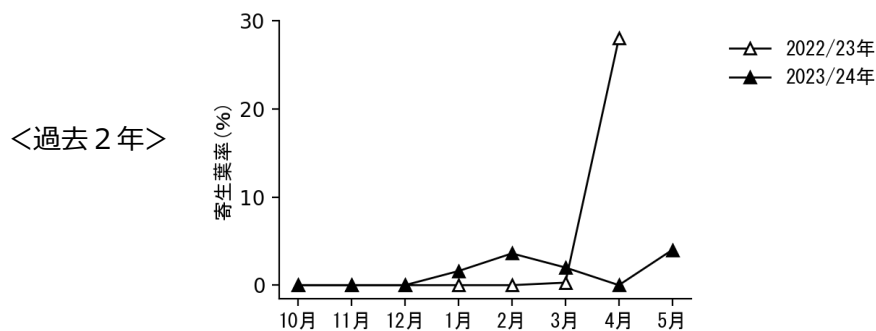
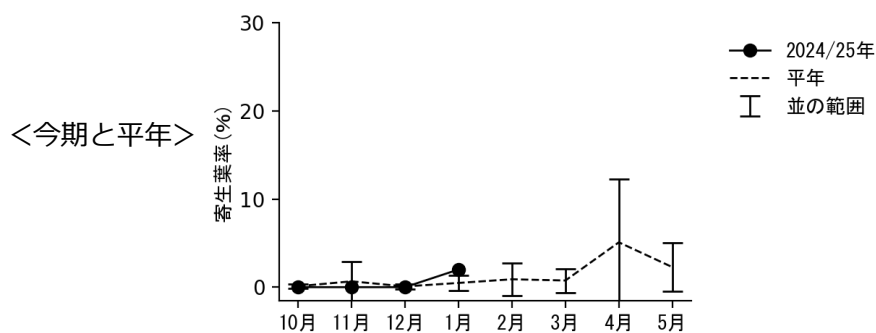


幼虫

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類			
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

寄生葉率の推移



・発生施設率50.0% (平年 : 13.0%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判定する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

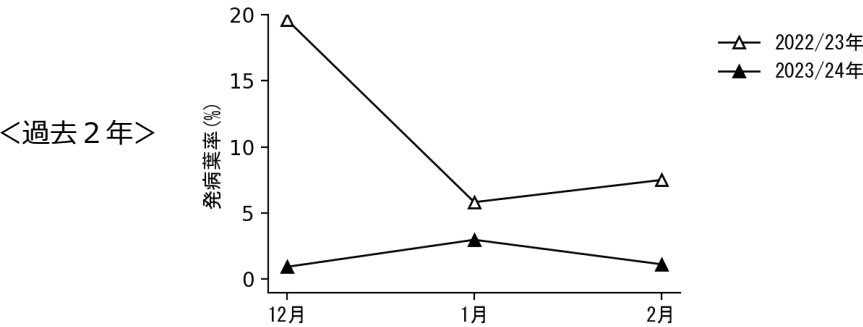
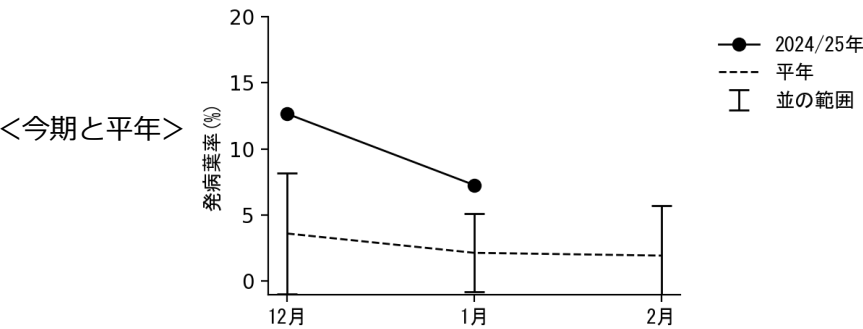


幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率66.7%（平年：23.4%）

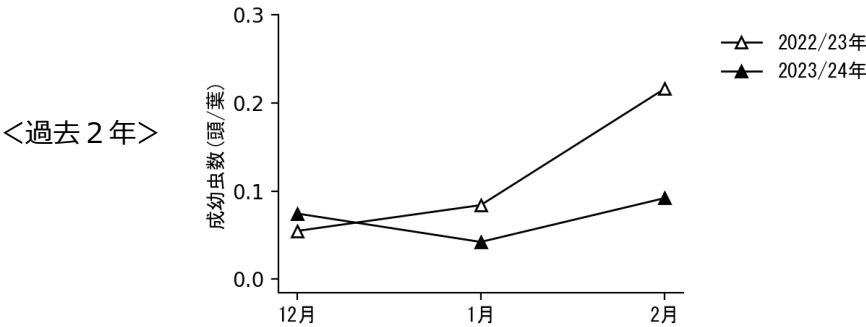
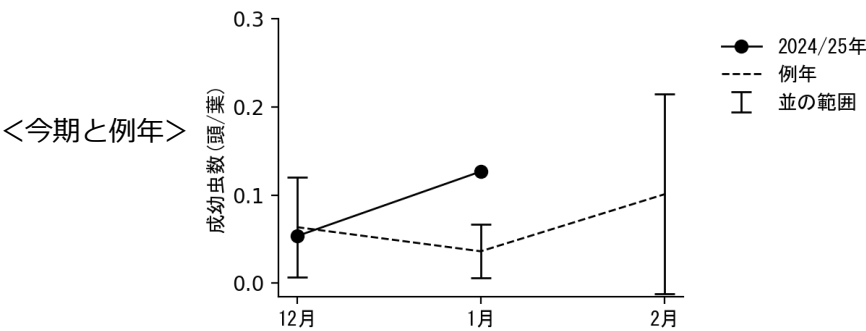
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草やマルチ等を行う。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- ・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		 クロゲハナアザミウマ	
調査結果	1 月の発生量（例年比）	やや多		
予報	1 月からの増減傾向	↗		
	2 月の発生量（例年比）	並		
予報の根拠		例年の発生量の推移（↗）		

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率83.3%（例年：72.2%）

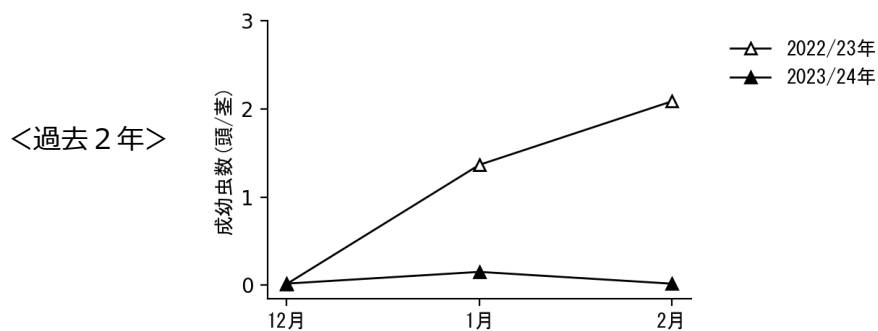
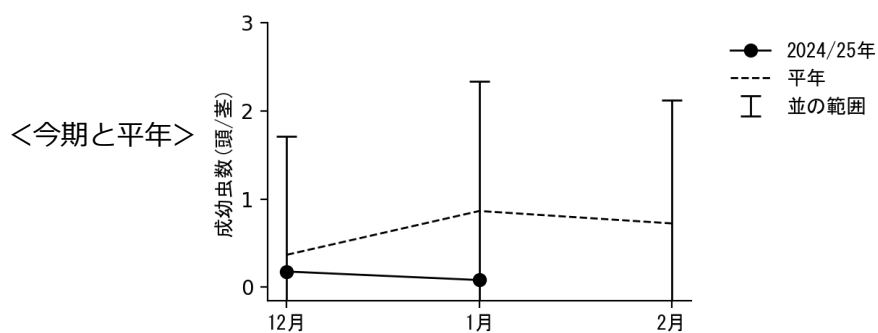
防除のポイント

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	↘		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率83.3%（平年：56.1%）

防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草を除去する。
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

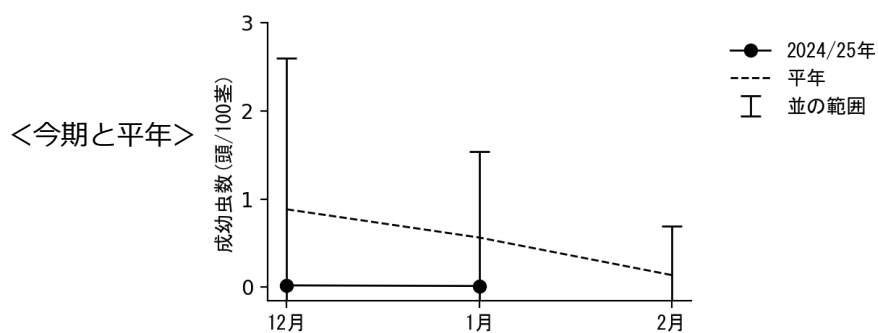


被害の様子

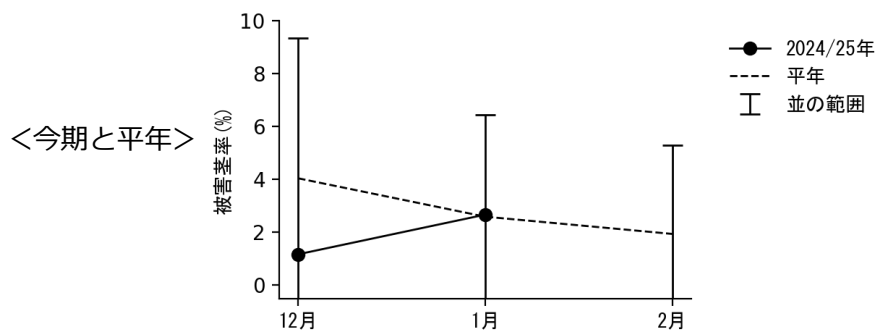
作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	④ カスミカメ類		 ウスモンミドリカスミカメ	
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	↘		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

成幼虫数の推移



被害茎率の推移

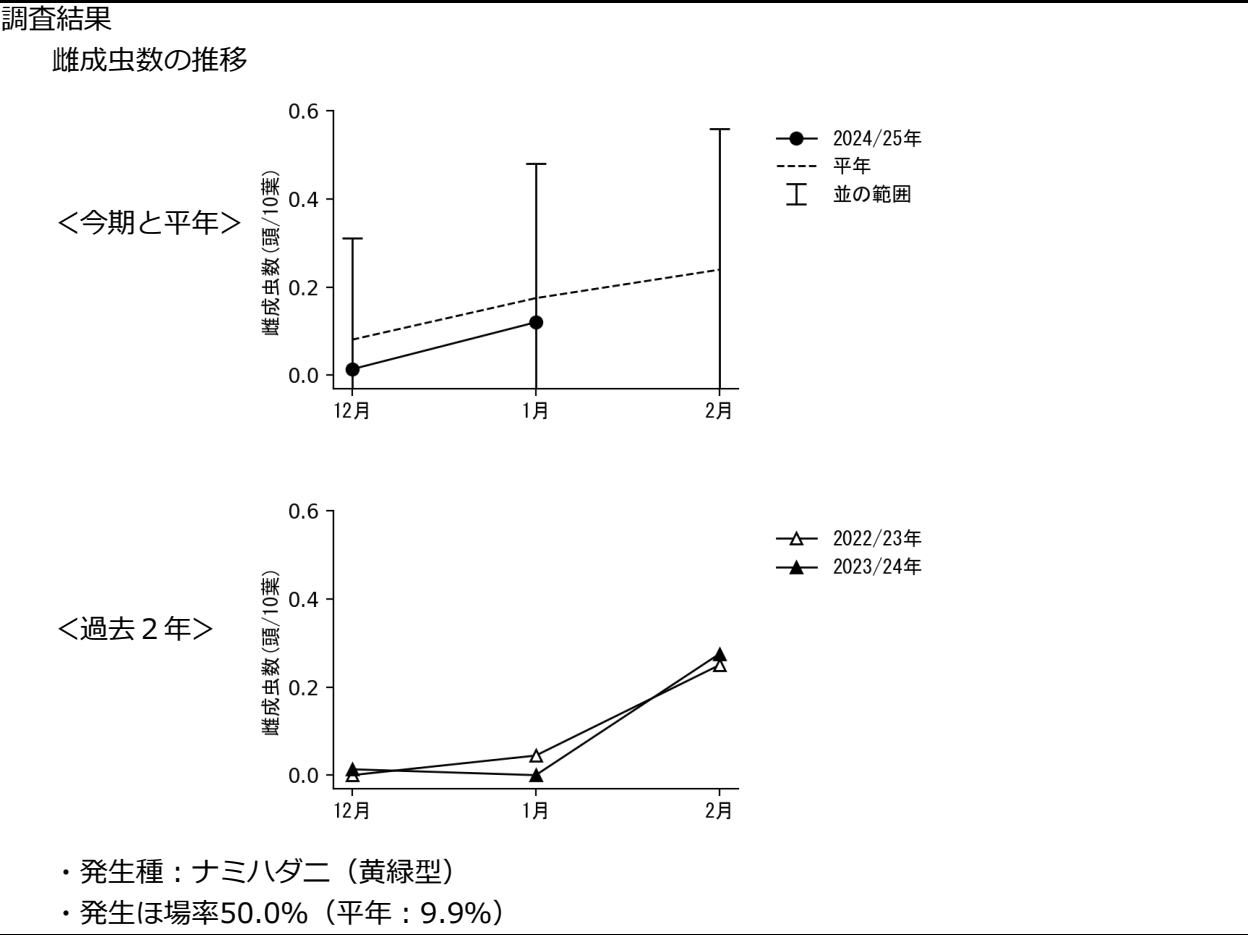


- ・発生種：ウスモンミドリカスミカメ
- ・発生ほ場率16.7%（平年：13.1%）

防除のポイント

- ・ほ場周辺のキク科雑草の花等は発生源となりうるので除去する。
- ・被害株は異常分枝するため、被害が確認された場合は速やかに再整枝を行う。
- ・防除は成虫の出現初期から 5 ～ 7 日おきに実施する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		 ナミハダニ	
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	↗		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		



防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。